

国際バカロレア MYP の音楽カリキュラムについての一考察
—日本とオーストラリアのインターナショナルスクールを比較して—

A Study of International Baccalaureate MYP Music Curriculum
- Comparing International Schools Between Japan and Australia -

松永 洋介 (教育学部音楽教育講座)

MATSUNAGA Yousuke (Department of Music Education)

1 問題の所在と研究の目的

国際バカロレア (International Baccalaureate: 以下 IB) には年齢に応じて 4 つの教育課程がある。もともとは大学入試資格 (Diploma) として始まった IB であったが、その教育内容が評価されることによって世界中に広まり、同時に低年齢からの教育課程が開発されるようになった。MYP (Middle Years Programme) はその中の中等教育課程にあたり、日本の小学校 6 年生から高等学校 1 年生までの 5 年間に相当する。

MYP の教育課程は 8 教科からなる。音楽は、視覚芸術、ダンス、演劇 (ドラマ) と共に教科としての「芸術」の一分野である。芸術の中における音楽の扱いは学校ごとに異なる。例えば 5 年間で音楽を学習するのは最初の 3 年間でそれ以降は選択という形態をとる学校もある。また日本の IB 校の中には、音楽専門の教師がおらず、非常勤講師が行っている学校もある。

以上のことから、IB のカリキュラムにおける芸術の位置づけについて、その理念と具体とを明らかにしたいというのが研究の動機と目的である。特に今回は MYP 芸術の音楽に焦点をあてる。

2 研究の方法

今回は文献研究を中心とした。当初は実際に学校を訪問する予定であったが、感染症流行時であり、海外への渡航が困難であった。そのため、インターネットに公開された各学校が公開する MYP Handbook をもとに、Arts における Music (音楽) のカリキュラムおよび指導内容を検討する。

特に今回は海外のインターナショナルスクールを対象とし、下記 3 校に焦点を当てた。

- (1) Concordia College (オーストラリア)
- (2) Walford Anglican School for Girls (オーストラリア)
- (3) 横浜インターナショナルスクール (日本)

これらの学校を選んだ基準は、インターネット上で音楽に関する教育課程を詳細に公開していることである。

3 IB におけるカリキュラムの構成

(1) MYP におけるカリキュラムの構造

まず MYP としてのカリキュラムの構造を述べる。

IB ではどの課程においてもまず「IB の学習者像」に基づいて計画が立てられる。これは IB の掲げる目標であり、IB から発行されるすべての出版物の最初の部分に必ずと言ってよいほど掲げられている。その目標は「探究する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニケーションができる人」「信念をもつ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りのでき

る人」の10項目である。このことについてIBでは「これらの人間像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティーの責任ある一員となることに資する」¹という見解を示している。MYPではこの学習者像をもとに図1に示したような構造でカリキュラムを作成している。

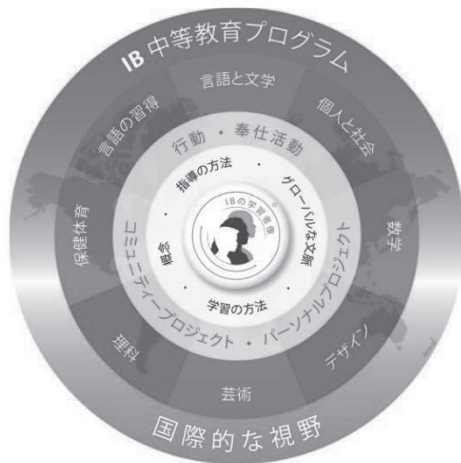


図1 MYPのカリキュラムモデル³

「理科」には物理、化学、生物、地学など、日本における理科の科目が含まれている。さらに「言語の習得」には外国語が、「言語と文学」には母国語の学習が含まれる。

(2)カリキュラム計画

IBでは「指導計画」「授業方法」「評価計画」の3つがそれぞれ、指導カリキュラム、授業カリキュラム、評価カリキュラムとして設定されている。これらは3つが相互に関連し合っており、かつ順序性をもつ。つまり全く別々のものではない。

「指導計画」は、各科目でそれぞれの学年の生徒に何を教えるべきなのかを、学校ごとに作成する公式文書である。ここでは①「重要概念」と「関連概念」、②グローバルな文脈、③ATL(学習の方法)スキル、④教科の目標の各要素をもとに学年ごとに教科横断的な授業計画が作成され、これらに基づいて指導案等が作成される。

「授業計画」は、意味を構築し、体系的な探究を通して理解を深めるような計画が求められる。ここでは教科の枠を超え教科間の関連を持った概念形成が期待されている。

「評価計画」は、授業後だけではなく、指導計画や授業方法と一体となって、指導全体で考慮される。生徒の到達度はIBが実施する外部モデレーションを経て承認される。このためにMYPeアセスメントがあり、これを受けることによってIBより公式の成績表が交付される。

(3) MYPにおける音楽の位置づけ

音楽の授業は基本的には国際バカロレア機構が発行する *Arts Guide*⁴ に基づく。しかし、授業内容はそれぞれの学校にゆだねられている。日本の場合は、学習指導要領の内容との整合性を図った学校と、学習指導要領との関連を考慮していない学校の2通りがある。前者はいわゆる1条校が中心であ

¹ 非営利教育財団国際バカロレア機構(2016)『MYPとしてのカリキュラム：原則から実践へ』2014年9月/2015年1月から適用、International Baccalaureate Organization(UK)Ltd.

² 科目名の表記は訳者によって異なる場合がある。例えば8教科を第一言語(母国語)、第二言語(外国語)、人文科学(歴史、地理等)、科学(物理、化学、生物、地学等)、数学、芸術、体育、ITとしたものもあるが、本論文ではIBOの発行する日本語訳に準じた。

³ 非営利教育財団国際バカロレア機構(2016)、同上書、p.6

⁴ IBO (2014) *Arts Guide For use from September 2014/January 2015*, International Baccalaureate Organization(UK)Ltd

り、後者はインターナショナルスクールが中心である。

また、芸術を *Performing Arts* と *Visual Arts* とに分け、音楽を *Performing Arts* に分類している学校もある。そうした学校の中には、5年間の課程のうち、前期2年間に *Performing Arts*、後期3年間に *Visual Arts* にあてている学校もある。

(4)MYP 芸術の目標

Arts Guide (2009) では、芸術の目標として「芸術に取り組むことは、探究心と共感的な世界観をもつことにつながり、想像力を刺激し、知覚に挑戦し、思考と分析のスキルを発達させ、感情的、文化的、精神的な生活を豊かにし、高揚させ、楽しませることができる」と述べている。

その後 *Arts Guide* は 2014 年に改訂され、新たに *Arts Guide 2014-15* が公開された。ここでは MYP 芸術の目標として「芸術は、若い想像力を刺激し、知覚に挑戦し、創造的で分析的な技能を開発する。芸術に取り組むことは、学生が文脈の中で芸術と芸術作品の文化的歴史を理解することを奨励する。したがって、探究的で共感的な世界観の形成を助ける。芸術は、個人のアイデンティティに挑戦し、豊かにし、現実世界の文脈で美学の意識を構築する」と述べている。

両者を比較すると、2009 年版は芸術に取り組むことによってその生徒の人生を豊かにすることに重点が置かれている。これは日本においては芸術教育の目的として、学校教育法第二十一条第九項に示された「生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと」に近いものがある。しかし 2014 年版は「個人のアイデンティティ」や「美学の意識を構築する」と内面的な成長にまで言及している点で大きな違いがある。

4 IB 校の音楽カリキュラム

(1) Concordia College⁵

Concordia College は南オーストラリア州のセント・ヴィンセント湾に面したアデレードにある幼稚園から高等学校までの一貫校である。この学校での MYP 課程は 7 年生から 10 年生までの学生が学習し、11 年生は DP コースに含まれている。なお、オーストラリアの南オーストラリア州には教育修了資格(South Australian Certificate of Education :SACE)という試験があり、11 年生と 12 年生を修了した生徒に付与される。これは英国の GCSE と同じように国際的に認識されている資格とされている。そのため生徒は 10 年生のとき、または 11 年生の開始時に高校での履修科目を計画するにあたり、個人の学習計画を作成しなくてはならない。また SACE を達成するには、必須科目と選択科目から 200 単位を取得する必要がある。この生徒成績に基づいてオーストラリア大学入学ランク (ATAR) が決定され、大学および職業訓練校 (TAFE) へ入学するために使用される。また、他国の大学入学に際しても認定されることがある。芸術も音楽や視覚芸術などの科目として含まれている。

ここでは「芸術」は美術⁶、デザイン、ドラマ、メディア、音楽の 5 つであるが、このうちデザインとメディアは 10 年生のみである。また音楽にはこれ以外に正課外で選択制のコースもある。

① Arts についての考え方

この学校の Arts に対する考え方として、「学生は芸術の学習者としてだけでなく芸術家としても機能する」「アーティストは好奇心が強い必要がある」「自分自身、他人、そして世界への好奇心を育むことで、生徒は効果的な学者、探究者、創造的な問題解決者になる」「学生は、感情、経験アイデアを引き付け、伝える方法で芸術に取り組み、作品を作る」「この過程を通して、学生は新しいスキルを習

⁵ <https://www.concordia.sa.edu.au/>

⁶ 美術は原文では Visual Arts として表記されているが、「デザイン」が別に表示されているためここでは美術と表記する。

得する」の5点を示している。

さらに芸術の目的として、「芸術作品を作成して提示する」「各分野に固有のスキルを開発する」「創造的な探究と自己発見のプロセスに取り組む」「調査と実践を結び付ける」「芸術作品とその文脈との関係について理解する」「芸術作品を振り返る」「世界への理解を深める」の7点を挙げている。

これらのことから、芸術を学ぶことは単に作品を作ったり鑑賞したりするだけではなく、生徒自身の興味・関心から生じたイメージを自分の外に表現する方法と捉えていることがわかる。さらに、芸術を文化として捉え、その背後にある文脈の理解や異文化への理解をも含んでいるといえる。

② Concordia における音楽の捉え方

Concordia の場合、音楽はその目的として、「包括的で安全で刺激的な芸術環境の中で質の高い音楽教育を提供することにより、学生の幸福を高める」「すべての学生が想像力に富み、自信を持って、協力的で、献身的で、知識が豊富で、回復力のあるコミュニティのメンバーとしての可能性を伸ばす力を与える」「生徒は協力して個別に作業して演奏、問題を調査して特定し、洞察、討論、解決策を導く」「そして、音楽作品を振り返り、評価し、評価する」「すべての生徒に音楽を体験する機会を提供し、音楽の参加者として機能する」の5つを挙げている。

しかしここに示された目的は、特に音楽である必要はない。他の芸術によっても可能なものである。しかし、これに続けて、音楽の授業を通して生徒に期待することとして、

- ・自分自身や他の人の創造性に対する好奇心、興味、楽しみを体験し、発展させる。
- ・音楽分析と音楽作成のプロセスを通して探究活動を行う。
- ・楽曲の作成に必要なスキルを習得して伸ばす。
- ・音楽の言語、概念、原則を使用する。
- ・音楽を通して彼らの考えやアイデアを伝える。
- ・音楽をつくる。
- ・自分や他の人の仕事を振り返り、評価する。
- ・時間、場所、文化を超えて音楽形式に対する受容性を発達させ、これらの形式の重要性を人生の不可欠な部分として認識する。

の8つを挙げている。これらは音楽を学習するだけではなく、音楽を通して文化そのものを学ばせようとしていると捉えることができよう。

③ 各学年の音楽カリキュラム

a. M1 (7年生)、M2 (8年生)

7年生、8年生の一般音楽コースは13週間からなる。これはさまざまな音楽経験を持つ学生がスキルを伸ばすことができる入門コースである。「A:APPLIED MUSIC」、「B:パフォーマンス」の2つのコースがあり、それぞれ週に2回行われる

APPLIED MUSIC コースでは、音楽リテラシーと聴覚スキルの開発、批判的リスニング、ドラムキットの演奏、調整されたパーカッション、作曲、音楽技術の利用などが行われる。しかし必ずしもこれらに限定されることなく他の分野もカバーした統合的なトピックも扱われる。また、楽器の経験を持っている学生には、レベルに合わせて適切な指導が行われる。

一方、パフォーマンスコースでは、これまでの音楽経験や各自の興味のある分野に応じたクラスアンサンブル（声を含む）が選択できる。また、例えばギター、パーカッション、またはキーボードアンサンブル楽器を学ぶ学生は、校内の音楽グループのどこかに参加することが勧められる。さらに生徒全員に、7・8年生合唱団やジャズ合唱団に参加することが勧められる。

b.M3 (9年生)、M4 (10年生)

9年生、10年生にも一般音楽コースがあり、APPLIED MUSIC とパフォーマンスの2つのコースとも通年で行われる。またそれぞれ各クラスで週に2モジュールのリハーサルが行われる。

APPLIED MUSIC コースは、「音楽技術」「音楽リテラシー」「歴史のおよび様式的文脈」「音楽分析」「作曲と編曲」「聴覚スキルの開発」の6つのユニットで構成される。また、これらのユニットは、AMEB グレード73 レベル（または同等のもの）の理論学習に統合されている。

一方、パフォーマンスコースでは、個人演奏とアンサンブルの2つがある。それぞれ各生徒が選択した楽器や声で個別のレッスンが行われる。さらに、学校の音楽プログラムに参加することが勧められる。

(2) Walford Anglican School for Girls

Walford Anglican School for Girls はその名の示すとおり女子校であるが、校名にある Anglican が示すようにキリスト教聖公会系の私立学校である。この学校もオーストラリアの南オーストラリア州ハイパークに位置している。この学校は ELC⁸ (幼児教育部) から12年まで学生に対応している。したがって IB 校の音楽カリキュラムプログラムは PYP から DP まで一貫した教育を行っている。なお、11年と12年には IB ディプロマを取得するか SACE を選択することを決めなくてはならない (両方の取得は難しい模様である)。

① Arts についての考え方

この項目については HP 上での記述は見られなかった。

② Walford における音楽の捉え方

Arts の学習は基本的には IB が発行する *Arts Guide* に基づいている。その中では、歌う、打楽器演奏、身体表現、聴取、創作などの活動を通して、声、リズムとビート、メロディーとピッチ、テンポ、形式とダイナミクスについての認識と理解を発達させることを目的としている。

また、この学校には共同カリキュラム活動があり、多くの生徒は、オーケストラ、バンド、アンサンブル、合唱団に参加していることから、音楽面での活動も盛んであることがうかがえる⁹。これらの活動は毎年コンサートが行われ多くの聴衆を集めている。

③各学年の音楽カリキュラム

a. M1 (Year6)、M2 (Year7)

これらの学年では、音楽理論の他に、コダーイのメソッドが取り入れられ、音高に対する感覚を養ったり、内的聴感が行われたりしている。

また6年生では、オーケストラ楽器、バロック音楽、子供のゲームと音楽、北インド音楽など西洋音楽だけでなく、ポピュラー音楽や民族音楽も対象としている。さらに、ミュージカル (このときは「雨に唄えば」¹⁰) やハンドベルを扱うなど幅広い学習をしている。

一方7年生においても、音楽理論とコダーイのメソッドは続けて指導されているが、実技面ではキーボードとウクレレの演奏が行われる。また音楽の要素についての学習や楽器の分類法についての学習も行われる。さらに標題音楽についての学習が行われ、鑑賞曲として「惑星」(Holst)が扱われてい

⁷ AMEB とは Australian Music Examination Board のことであり、日本ではヤマハのグレート検定に近いものと考えられる。

⁸ ELC : Early Learning Center

⁹ <https://www.walford.net.au/learning/co-curricular/> (2021.1.3 アクセス)

¹⁰ 1952年公開のジーン・ケリー監督によるミュージカル映画であるが、歌は1929年公開のMGM作品『ハリウッド・レビュー』で用いられ、アーサー・フリード作詞、ナシオ・ハーブ・ブラウン作曲である。

る。

b.M3 (Year8)

8年生では理論、歌唱、演奏、鑑賞が行われる。例えば理論ではビート、リズム、ピッチ、テンポ、ダイナミクス、音符の名前と意味、拍子記号と音部記号など、日本で指導される〔共通事項〕とほぼ同様の内容が扱われる。また歌唱では声域や技能が指導され、視唱の他にレパートリー曲をもつように指導される。演奏はグループ演奏が中心とされるので、楽器の技能は前学年までに身につけた能力を活用しているものと推測される。さらに音楽鑑賞では民族音楽だけでなく、ロックや映画音楽が扱われる。

c.M4 (Year9)

9年生では理論、演奏、鑑賞、作曲に加えて聴覚認識という分野がある。これは音程、音階、三和音、調性を聴き取るもので、日本でいう聴音に相当する。

理論では全音、半音、音階、調号、拍子記号、聴き取りなどが行われるが、ここで示されている聴き取りと聴覚認識の違いについては明らかにすることができなかった。また演奏では個人およびグループによる歌や楽器演奏が行われる。

この学年の特徴としては、ブルースの学習に重点が置かれていることである。鑑賞でミュージカルやブルースが扱われるが、作曲においても12小節のブルースパターンを用いた作曲が行われる。ただ、演奏分野においてもブルースが扱われているかどうかは不明である。

④評価規準

Wolford で MYP による基準に基づいて評価規準が次のように設定されている。

評価項目は、「A:知識と理解」「B:技能」「C:創造的思考」「D:反応」の4領域である。これにさまざまな達成レベルが示され、それぞれ8段階に区分した評価規準が定義されている。したがって教師は、生徒を評価する際に、示された8段階の規準から最も一致する記述に合致したレベルを選択することになる。

「基準A:知識と理解」は、取り組んだ芸術形態、文脈、概念がどのように理解されているか、「基準B:技能」は、取り組んだ芸術形式のスキルと技術の習得と伸長、「基準C:創造的思考」は想像力に富んだ制作活動やアイデアの探究、そして「基準D:反応」は、鑑賞を通して、自分や他の人の作品を評価することが規準となる。

(3)横浜インターナショナルスクール (YIS)

横浜インターナショナルスクールは幼児から12年生までの教育課程をもっている。したがってIBプログラムもPYPからDPまで一貫して実施することが可能である。生徒は日本駐在の外国人だけでなく日本人も含めて約700名在籍している。

①Arts についての考え方

この学校では芸術について次のようなコミットメントを示している。

「カリキュラムの不可欠な部分として、また、学生の想像力を刺激し、創造的な表現のための多くの機会を与えるクラブなどの幅広い活動を通じて、芸術は顕著な役割を果たしています。パフォーマンス、展示、理論の基本的な理解は、舞台芸術と視覚芸術プログラムの重要な要素です。学生は年間を通じて才能と情熱を発揮し、YIS コミュニティーや彼らが住んでいるより大きな社会と協力する機会を与えられています。これらの経験は、彼らが世界を見る方法を変え、彼らの創造的な声を聞かせ

る機会を与え、彼らが肯定的な変化を行うことを可能にします。」¹¹

つまり芸術活動は単なる表現手段だけではなく、芸術を通して生徒自身の変容していくことを期待しているということである。また正課としての芸術の授業以外に、クラブ活動などを重視していることも特徴であろう。また、この学校の特徴の一つとして日本音楽プログラムが挙げられる。これは箏を用いて4年生から12年生までを対象に、日本の伝統音楽の理解と理解を深めることを目指しているものである。

②各学年の音楽カリキュラム

a.6年生

6年生は「演奏」「リズム」「ピッチ」の3つのユニット（単元）から構成される。

まず「演奏」では楽器を演奏するが、学びたい楽器を選ぶ前に、さまざまな楽器の音色を聴いて試す機会がある。そして選んだ楽器を用いて個人練習やアンサンブルを行う。なお、「このときに新しい楽器に習熟するために必要な責任を学びます」と記している点は態度面の学習にもつながる。

次に「リズム」では、パーカッションを使用してリズムと音価の学習をする。このときに様々なリズムパターンを作ったり、形式を用いて表現したりすることから、創作面の学習も行っていると言える。

さらに「ピッチ」では、長調、短調、ペンタトニックなどの音階を通して、様々な文化における音楽の特徴を調べる学習を行う。さらにアンサンブルの一部として演奏し、ミュージシャンとして演奏することの楽しさを体験する機会も提供される。

b.7年生

7年生は「メロディー」「ブルース」「アジアの音楽」の3つのユニットから構成される。

まず「メロディー」では、メロディーを調べ、そこに含まれている音楽的要素を分析して抽出する。このことで彼らは、旋律的な輪郭や基本的なダイナミクスなどの形式的側面がアーティスト（作曲家や演奏者）のメッセージを伝えるのにどのように役立っているのかを判断する。

次に「ブルース」では、伝統として用いられてきた口伝えや聴唱の方法を学習した上で、西洋のポピュラー音楽に関連するハーモニー、形式、即興の起源を学ぶ。また、新しく獲得した技能を用いてオリジナルの音楽を作ったり演奏したりする。

さらに「アジアの音楽」では、中国や日本の音楽の媒体を通して形式と作曲に焦点を合わせる。

そして聴覚による分析と脱構築的な手法を用いて、マイナーな調性を追究し、アジアの音楽で一般的に使用されるさまざまな新しい音階を用いて演奏する。

c.グレード8

8年生は「現代のハーモニー」「サウンドトラック」「マッシュアップ (Mashup)」¹²の3つのユニットからなる。

まず「現代のハーモニー」では、ロックとポップミュージックに用いられる現代的なハーモニーに基づいて独自の曲を書くことにより、ハーモニー、形式、作曲の概念をより深く掘り下げる。つまり、現代のロックやポップスで用いられているコード進行を詳しく分析することにより彼らの音楽観を広げることだと推測される。

次に、「サウンドトラック」では、短編映画のサウンドトラックを作成することにより、表現の音楽

¹¹ <https://www.yis.ac.jp/beyond-the-classroom/arts> (2021.1.3 アクセス)

¹² **mushup** とは、**Sound Zoo** (音楽ストーリーミングサービス専門メディア) によれば「複数の曲の中から、一つの曲からボーカルを、別の曲からメロディーを取り出し、一つの曲としてつなげて完成させる **remix** の一種」とされている。
<https://studentwalker.com/edm-word-about-mashup> (2021.1.3 アクセス)

的要素が作曲のムードにどのように影響するかを学ぶ。

3 番目の「マッシュアップ」は一種の創作であると理解される。生徒は、いろいろ混合された声と複雑な形式とを組み合わせて、作曲する方法を探る。また、作曲家が他のアーティストからアイデアを学んだり、借用したりする方法についても調べる。そして次に、「マッシュアップ」の形でオリジナルの作品を作成する。

d.9 年生 探究学習

9 年生では「現代のハーモニーと作曲」「西洋芸術音楽の形式」「アフロキューバン音楽」「印象派とロマン派の音楽」の 4 つから構成される。

「現代のハーモニーと作曲」では、生徒は、まずリスニングとディクテーションを行う。次に現代音楽の和声分析を行う。さらに彼らは、選択した楽器を練習するが、集中できるように練習日誌を記入する必要がある。これは、楽器のメンテナンス、精神的なウォームアップ、エチュードやメソッドブックを使った練習、現在学んでいるレパートリーの特徴などの項目からなる。

次に「西洋芸術音楽の形式」では、バロックと古典派がどのように音楽の形式を扱ったかを調べる。中でもソナタ形式だけでなく、西洋の芸術音楽においてこれら 2 つの時代から一般的に使用されるようになった多くの形式の分析を行う。彼らは小グループで活動し、選択した部分を分析した結果をオンラインデータベースに追加する¹³。

3 番目のアフロキューバン音楽では、西アフリカとカリブ海の音楽の歴史とリズムを探究する。またガレージバンド (Garage band) を用いて、選択した 2 つの作品を比較するポッドキャストを作成する。この活動によって彼らはポリリズムについての理解を深めていく。

4 番目の「印象派とロマン派の音楽」では、古典派から個人の感情が表現されるようになったロマン派及び印象派における多くの作曲技法を学ぶ。また、交響詩と連作歌曲についても学ぶ。さらにこれらを、より現代的な作曲のサウンドスケープでどのように使用するかを検討する。

5 成果と課題

以上、各国の公教育とは異なった教育課程をもつインターナショナルスクールのカリキュラムについて述べてきた。これらの中で特徴と言えることを以下に述べる。

(1)日本の指導計画に見られるような系統性が明確に判別しにくいこと。

例えば 7 年生で比較すると、Concordia では APPLIED MUSIC とパフォーマンスの 2 つのコースがある。そして APPLIED MUSIC コースでは、音楽リテラシーと聴覚スキルの開発、批判的リスニングなどが行われる。内容としてはトピック的な扱いであると推測される。一方、パフォーマンスコースでは、声や楽器のアンサンブルが選択できる。これはこれまでの音楽経験や各自の興味のある分野に応じて選択できるが、校外で習得した楽器技術を生かすことも可能である。さらに校内の音楽グループのどこかに参加することが勧められる点で、正課としての学習以外にもその成果を生かす場が用意されている。

Concordia では、第 7 学年では合奏や合唱などの演奏、第 8 学年からは音楽理論、音楽史や鑑賞を含めた分野と演奏分野の 2 分野に分かれるため、学年間を縦断した体系的な指導が意図されているかどうかは読み取ることができなかった。

一方、Wolford では 6 年生、7 年生において、音楽理論とコダーイのメソッドが取り入れられ、ソルフェージュ的な学習が行われている。しかしその一方でゲーム音楽や北インド音楽などのポピュラー

¹³ これは Theory Tab と呼ばれるウィキペディアスタイルのものである。

音楽や民族音楽も学習対象としている。さらに、ミュージカルやハンドベルを扱うなど幅広い学習をしている。また7年生ではキーボードとウクレレが扱われている。

日本では小学校から学習するリコーダーが中学校においてもその延長線上に扱われているが、これらの学校では小学校またはPYPからの継続性を読み取れる内容は得られなかった。

その一方で、横浜インターナショナルスクールのように箏を取り上げ、自国文化を重視する学校もある。

総合的に見て、学習内容がMYPの各学年間を縦断して一貫的なものとは判断できなかった。しかしこれは音楽のカリキュラムが無計画に行われていると言うことではなく、MYPの5年間を通して学ぶべき内容を各学年に配置しているという考え方に基づいていると捉えることもできる。

(2) 指導計画の示し方に学校間の差がある。

以上に示してきた3校のうち、ConcordiaとWalfordは概略と目標を示したのちに、学年ごとに学習内容を示している。またこれら2校はオーストラリアの学校であるが、学年別に詳細に示すことが国による特徴なのかどうかは現時点では判別できない。

しかしながらConcordiaのカリキュラムは第7学年から第10学年までを示しており、第6学年の記載はない(MYPは第6学年から第10学年までである)。これは音楽科だけでなく他教科も同様であるため、学校のシステムに起因する可能性がある。

一方、Walfordでは、Concordiaのような領域だけではなく、学習内容も詳細に示されている。例えば第6学年の声楽では、コダーイメソッドを用いた読譜法や2声のカノンが挙げられている。

(3) 評価の観点

3校に共通していたのは、評価の観点である。これはMYPの*Arts Guide*に示された、「知識・理解」「技能習得」「創造的思考」「反応」の4領域に基づいている。しかしその記述の内容は学校ごとに異なっていた。これは評価の観点は全世界で統一するが、その内容に関しては各学校の方針に委ねるといふ、それぞれの裁量権が尊重されていることによると考えられる。Walfordのカリキュラムでは、使用する教科書まで明示しているが、このように詳細に示す学校もあれば、概略を示すのみの学校もある。後者の場合は特に担当する教師の工夫に委ねている部分も多いのではないかと推察する。

以上のような成果が得られた反面、課題も上がってきた。

まず、現在のように感染症が世界に蔓延している状況では、実際に現地見学が困難な状況である。実際の授業見学は当然困難が予想されるが、遠隔会議で各学校と連絡を取りながら具体的な授業の実施方法についてさらに研究を深めていきたい。

次に、DP(Diploma Programme)との接続である。

MYPにおけるArtsは、そのままDP(Diploma Programme)へとつながっていく。しかし、DPを構成する6教科の中で芸術は選択科目となっている。具体的にはDP6教科は①言語と文学(母国語)、②言語と習得(外国語)、③個人と社会(ビジネス、地理、経済、歴史、心理学等)、④実験科学(物理、化学、生物、環境システム、環境テクノロジー等)、⑤数学とコンピュータ科学、⑥芸術または選択科目からなる。つまり⑥芸術または選択科目は、芸術科目(音楽、視覚芸術、ダンス、フィルム、演劇)または①から⑤までの中から1科目選択、のいずれかである。つまり芸術は必修科目に位置づけられていないのである。なお、DPにはこのほかに「課題論文」「知の理論(TOK)」「課外活動(CAS)」の3科目が必修であるがここでは省略する。

問題はMYPから接続し、大学入学資格に直結するDPの中で芸術が選択科目となっていることが、MYPの教育の中でどのような影響を与えているのかということである。これは英国のAレベル試験やドイツのアビトゥーアにも言えることだが、一般大学の入学試験において音楽を入試科目とするこ

との意味や入学後の可能性についてさらに研究を深めていきたい。

※本研究は科学研究費基盤研究 (C) 課題番号: 17K04854 による助成金を受けたものである。

参考文献

- Barry Goldwater High School(2020)*IB Middle Years Program MYP Handbook 2020-21*
https://www.dvusd.org/site/handlers/filedownload.ashx?moduleinstanceid=21963&dataid=11312&FileName=IB_MYP_HANDBOOK_2021.pdf (2021.1.3 アクセス確認)
- Concordia College(2020) *MYP Years 7-9 Subject-Handbook-2021*
<https://www.concordia.sa.edu.au/assets/Learning/MYP-Subject-Handbook-2021.pdf>
(2021.1.3 アクセス確認)
- HAIDEN,M.THOMPSON,J(2011),Taking the MYP Forward. A John Catt Publicaion
- IBO (2009) *MYP Arts Guide 2009*, IBO
- IBO (2014) *MYP Arts Guide 2014-2015*, IBO
- IBO (2016) 「MYP:原則から実践へ 2014年9月/2015年1月から適用」
- 相良憲昭・岩崎久美子編 (2007)、『国際バカロレア』、明石書店
- Walford Anglican School for Girls(2020)*Middle_School_Curriculum information*
https://www.walford.net.au/assets/content/2020_Middle_School_Curriculum_Booklet1.pdf
(2021.1.3 アクセス確認)
- 横浜インターナショナルスクール
<https://www.yis.ac.jp/learning/middle-school/curriculum/middle-school-music>
(2021.1.3 アクセス確認)